

広報誌づくり

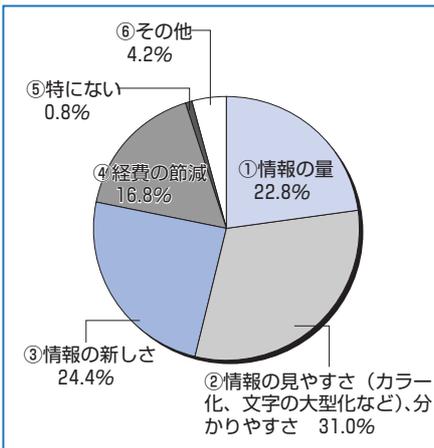
「情報の見やすさ、分かりやすさ」を一番に求める声が31%。「情報の新しさ」や「情報の量」を重視する声もそれぞれ20%を超える。

●確かに経費削減の必要はあると思いますが、広報さっぽろは、冊子の大きさやカラーページの充実、字や写真の大きさなど、どれを取っても老若男女が読めるように考えて作られていると思います。

(東区 二十歳代女性)

誌上アンケート結果

問2 広報誌づくりにおいて、今後、最も必要だと思われることは何ですか？あなたのお考えに近いものを一つお選びください。



●税金の掛け過ぎだと思えます。カラーにしないで分かりやすい誌面は作れるはずですし、こんなに立派な紙でなくてもいいはずです。

(厚別区 三十歳代女性)

●一度では読みきれず、情報を見逃しやすい。省資源で、もっと簡単に読める広報誌をお願いします。

(南区 三十歳代男性)

●広報さっぽろは「市民」のものであって大人だけのものではないと思います。カラーページや写真、大きな見出しがあることによって、中学生が読もうという気になります。

(東区・富樫有加さん 十二歳)

●カラーだから情報として受け取りやすいわけではないと思います。字間や行間、割り付けなどの要素も大事。目次や見出しの工夫で、必要な情報を探しやすくしてはどうでしょうか。

(西区 四十歳代女性)

広報誌の配布の在り方

40%以上の方が、現行の「町内会などによる全世帯への配布」を望む

●小さな子供がいると、外出するところが大変で、公共施設などでの希望者への配布は困ります。市民が行政離れを起こさないためにも、現状の配布方法を望みます。

(厚別区 三十歳代女性)

●読まない人にまで広報誌を配布するのはもったいない気がします。各家庭にはタブロイド判を配布して、

希望者のみが公共施設などに冊子を取りに行くというのはどうでしょう。

(西区・佐々木巧君 十四歳)

●今の配布方法は、町内会の負担が大きいです。身近な公共機関で配布するとともに、老人世帯などには戸別配布するなど、それぞれの要求に合わせた方法を考えるべきだと思います。

(白石区 五十歳代女性)

●環境やコスト(費用)面などを考えると、広報誌購読の可否を調査した上で、希望者へのみ戸別に配布するのが良いと思う。市民に必要な情報は、これまで以上にテレビやインターネットなどを活用した広報で。

(北区・石山薫君 十六歳)

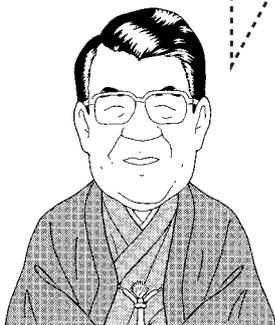
●町内会の負担を少なくするため、広報誌はぜひ専門業者による配布にしてください。面倒な配布担当は、誰も引き受けたがりません。

(南区 四十歳代女性)

たくさんのご意見ありがとうございました

11月号の特集、「検証!!『広報さっぽろ』の今、そしてこれから」に、多くの方から声を寄せていただき、深く感謝しています。ご意見のどれからも、広報さっぽろの在り方に関する皆さんの真剣な考えが、ひしひしと伝わってきました。

11月号でご説明した通り、広報さっぽろの抱えている課題は、「協働型社会への対応」、「情報化社会への対応」、「厳しい財政状況への対応」の三つ。これらを解決し、より親みをもって読まれる広報さっぽろにするにはどうすべきか。今月から1万人を対象に実施する「市民アンケート調査」などを通じて、さらに多くの方のご意見を伺いながら、時代の変化に対応した望ましい広報誌づくりに取り組んでいきます。



札幌市長
かつらのぶお
桂 信雄

誌上アンケート結果

問3 広報誌の配布の在り方について、今後どのように考えますか？あなたのお考えに近いものを一つお選びください。

